

早起きをして朝ごはんを食べよう会

1. 団体概要

- ・宮園校区まちづくり協議会※（大阪府堺市中区宮園小学校校区）が主催する子供食堂
- ※（自治連合会、PTA、青少年指導員、子ども会、老人会等の連携組織）
- ・開催日時：月1回第4金曜日7:00～8:00（登校前）
- ・開催場所：宮園校区地域会館（閉園となった公立幼稚園を利用した集会施設）
- ・参加費：子供・大人100円（基本的には、小学校の児童の参加を想定）
- ・参加者数：50名程度
- ・対象者は、堺市立宮園小学校全学年児童（児童数110名、平成29年5月1日現在）
- ・食後は参加児童に対し歯磨きや食育等の生活習慣に関する指導を行い、登校時まで読み聞かせを行っています。（平成28年度第5回堺市北区教育・健全育成会議 資料3）

2. 取組のきっかけ

平成27年度の堺市中区教育・健全育成会議※の提言書「家庭・地域における教育健全成に向けた取組についての提言書」に、「地域がともにつながり子育てに参加する場づくり」が提言の一つとして盛り込まれました。中区役所が教育・健全育成会議の委員が、この「地域がともにつながり子育てに参加する場づくり」に係る取組について検討を行う中で、自治会に小学校の季節行事（耐寒登山等）における昼食の提供や地域の高齢者に対する朝食の提供といった活動実績があり、一方で子どもの虫歯の多さや朝食の欠食の多さといった課題も指摘されていた、宮園校区が実施対象となりました。

実現可能性に関する自治会や学校との事前のすり合わせを経て、中区役所や教育・健全育成会議の委員が、自治会による登校前の児童への朝食の提供を、宮園校区の自治会等に提案するに至りました。（平成28年度第2回堺市中区教育・健全育成会議 会議録、平成28年度第5回堺市北区教育・健全育成会議 資料3・会議録）この提案をもとに、宮園校区まちづくり協議会が主体となって校区児童を対象とした朝食会を開催し、食後には参加児童に対し歯磨きや食育等の生活習慣に関する指導等を行うという取組が、「宮園校区子どもの生活習慣応援事業」として開始されました（試行実施：平成28年6月、本格実施初回：平成28年7月）。

※区教育・健全育成会議は、当該区域の教育・健全育成に係る課題の解決及び施策事業の推進に関して、市長及び教育委員会双方からの依頼に基づき、調査・審議を行い、提言・報告する、学識経験者等による委員会です。堺市区教育・健全育成会議条例にもとづき、平成27年度より堺市の各区に設置されています。

3. 食育の取組

①健康寿命の延伸につながる食育の推進

- ・朝食や正しい歯磨きといった生活習慣の改善を働きかけることが意識されています。また、単に朝食

を提供するにとどまらず、児童が自分でトーストを焼く、フルーツをお皿にとる、飲み物をコップにつぐといったカフェテリア方式をとることで、家庭でも自分で朝食を用意して食べることができるようになるようになることも意図されています。（平成 28 年第 3 回堺市中区教育・健全育成会議 会議録 p.2）

- ・学校が夏休みとなる 8 月には、「夏休み勉強会」として、子供たちの勉強をみる会を、昼食の提供とあわせて実施しています。初年の平成 28 年 8 月には、勉強会と併せて、食生活に関する学びの機会を持てるようにするため、夏休みの宿題の指導を学生ボランティアが行った後、中保健センターの管理栄養士による児童向けの研修（講話・クイズを通じて、栄養バランスを考えながら食品を買うことを学ぶ）、さらに家でも簡単に用意できる食事の実例として、まちづくり協議会のメンバーや学生ボランティアと握ったおにぎりや豚まんを食べることも行われました。（平成 28 年度第 4 回堺市中区教育・健全育成会議 資料 1・会議録 p.1）
- ・家庭環境によっては、起床・食事・登校といった生活リズムが十分に作れていない児童もいる中で、登校前の時間に開催していることが、遅刻や欠席をせずに学校に通う契機となっていると考えられるとのことです。

②多様な暮らしに対応した食育の推進

- ・宮園校区は、公営住宅団地を校区としており、様々な生活環境の世帯があります。（平成 27 年度第 3 回堺市中区教育・健全育成会議 議事録）運営者は、たとえば母子家庭の子供は、孤食であることが多いのではないかと感じており、子供食堂がともに食事をする機会になればよいと考えているとのことです。
- ・また、開催にあたり、大阪府立大学や帝塚山学院大学食物栄養学科の学生ボランティアが、食事の補助、食後の歯磨き指導の補助、本の読み聞かせ等にあたっていますが、その際の学生ボランティアによる声かけを大事にしているとのことです。

学生による声かけの様子



写真の出典：帝塚山学院大学ホームページ

http://www.tezuka-gu.ac.jp/faculty/food_nourishment/info/index.php?c=topics_view&pk=1515651696

- ・調理スタッフは、地域住民が行っているが、この調理スタッフと児童とが近所でたまたま会った際に言葉を交わすようになる等、地域内のつながりのきっかけづくりにもなっているとのこと。

4. 地域との連携等による課題解決

(1) 来てほしい人や家庭の参加（主要課題①）

- ・開催の通知・参加申し込みは、宮園校区まちづくり協議会の側で通知を作成して宮園小学校側に提供し、学校が児童に通知を配布するとともに申込みを受付、参加者をとりまとめて協議会に知らせています。
- ・個別児童の朝食欠食状況について、運営者がこれを把握し対象の児童を絞って事業を実施することは難しいため、小学校を通じて等しく全校生徒に呼びかけをする方法で、最も来てほしい朝食欠食児童やその家庭も含めて、情報が伝達されるようにしています。

(2) 資金の確保（主要課題②）

■運営費の助成・寄付

- ・平成 29 年に、堺市からの助成金（堺市子ども食堂開設支援補助金、20 万円）を受けて、食材を保管するための冷凍庫を複数購入しました。この助成金は、備品の購入には使用できますが、運営資金には使えません。
- ・食事に使う食器類や準備のための洗剤や手洗いの消毒液の購入費用、保険等の費用には、堺市の「地域まちづくり支援事業※」の補助金が活用されました。（平成 28 年度第 3 回堺市中区教育・健全育成会議 会議録 p.4）
- ※「地域まちづくり支援事業」は、地域住民が、自らの地域における身近な課題を自ら主体的・自己完結的に解決する校区レベルでの活動に対する補助金を交付し、市民協働・市民参加による地域のまちづくりを推進する堺市の事業です。堺市の各区に予算が配分され、区が交付先を決定しています。
- ・堺市社会福祉協議会を通じて民間財団の助成金を申請し、食材の購入費に充てています。
- ・参加者の負担 100 円/回は、おもに毎回歯磨き指導の歯ブラシの購入に充てられているとのこと。

■食材提供

- ・堺市東区にあるフードバンク「ふーどばんく OSAKA」からの食材の提供を受けています。最近では、堺市内での子供食堂の活動が活発となる中、「ふーどばんく OSAKA」で提供される食材が払底しつつあるという課題が生まれているとのこと。食材が不足する場合や、フードバンクでは得ることが難しい野菜や果物については、民間財団の助成金をもとに、購入しています。
- ・飲料については、区内にある乳業会社から安価に提供を受けています。（平成 28 年度第 5 回堺市北区教育・健全育成会議 資料 3）
- ・宮園校区は団地のみで農家がない校区であるため、農家からの食材提供支援は受けにくい状況

にあります。

(3) スタッフの負担、スタッフの確保 (主要課題③)

- ・宮園校区では、従来から「校区福祉委員会」※が活動しており、5年前からは、月1回第3土曜日に高齢者向けに昼食を提供する「わかき」の活動が行われてきました。調理スタッフは、「わかき」の調理スタッフの他、自治会婦人部、老人会、校区福祉委員会等を通じて、「継続して参加できる人」という要件で募ることで確保がなされました。
- ※宮園校区福祉委員会は、民生委員児童委員会、自治会、老人会、子ども会、母・父子家庭会、婦人部、小学校PTA、中学校PTA、ボランティアにより構成されています。
- ・大阪府立大学や帝塚山学院大学食物栄養学科の学生ボランティアが、食事の補助、食後の歯磨き指導の補助、本の読み聞かせ等の活動でサポートしています（帝塚山学院大学ホームページ、平成28年度第4回堺市中区教育・健全育成会議 資料1）。
- ・学生ボランティアの活用は、大学の地域連携のテーマの1つであり、従来様々な中区役所の催しや取組に協力を得ていて区役所とつながりのある大阪府立大学や帝塚山学院大学食物栄養学科及び心理学科（平成28年度第3回堺市中区教育・健全育成会議 会議録 p.2）の教員に区役所から相談し、教員から学生への声かけを依頼したとのこと。帝塚山学院大学では、2年目にあたる平成29年度には、ボランティアを希望する学生が多く集まり、学校で抽選を行っている状況となっているとのこと。
- ・朝の開催であることは、学生ボランティアにとっても参加後に登校できるため、昼や午後開催の活動よりも参加しやすいとのこと。

(4) 地域との連携 (主要課題④)

- ・中区役所から地元（宮園校区自治会等）へ提案した取組であることから、中区役所としては、事業開始に向けて、宮園小学校との協力体制の確立、食材の提供についてのフードバンクや地元乳業会社との調整、大阪府立大学や帝塚山学院大学への学生ボランティア派遣依頼調整といった支援先とのつながりを作っていく形の支援を行いました（平成28年度第5回堺市北区教育・健全育成会議 資料3）
- ・歯磨きの指導は当初2回目までは中保健センターの歯科衛生士が行いましたが、（平成28年度第3回堺市中区教育・健全育成会議 会議録 p.2）、3回目以降は保健センターから歯磨き指導の講習を受けたまちづくり協議会のメンバーが行う体制に移行しています（平成28年度第4回堺市中区教育・健全育成会議 会議録）。
- ・宮園小学校の教員が、毎回1人は参加して一緒に食事をとり、子供食堂を体験しているとのこと。

(5) リスク管理 (主要課題⑤)

- ・児童のアレルギーに関する情報は、児童の参加申込みを受付けている学校から通知がある他、児童

自身からの申告もあるが、今のところ、重度のアレルギーを持つ子供は来ていないとのこと。毎回のメニューは、フードバンクから得た食材の在庫状況を勘案して決め、事前に学校に通知することとしています（食材調達の状況によっては当日になる場合もあります）。

- ・食中毒がひとたび生じてしまうと活動が続けられなくなるので、調理時には指輪を外し、使い捨て手袋を装着する、野菜は前日に購入して当日朝に調理する等、食中毒の防止には気を使っています。
- ・また、大阪府社会福祉協議会「ボランティア・市民活動行事保険」に加入しています。

5. 早起きをして朝ごはんを食べよう会が必要としている支援

■ 関係機関に期待すること

- ・行政からの補助や助成は、設備購入には使ってもランニングコストに振り向けられない等、制約が多く使いにくい面があるため、ランニングコストへの補填も含めて様々な用途に使える資金援助があればよいと感じるとのことです。

■ 対象者の拡大、アウトリーチ

- ・「朝ごはんを食べよう会」に来ていない児童はどうして参加できていないのか、状況が把握できず、対策を立てることができていないことも課題です。
- ・本格実施の初回である平成 28 年 7 月の回の参加児童 38 人に対するアンケート結果では、朝食を欠食することがある児童は 1 割程度であり、最も来てほしい対象である、朝食欠食児童に十分なアプローチができていない可能性があります。（平成 28 年度第 3 回堺市中区教育・健全育成会議 会議録 p.4・資料 1-2）また、スタッフの立場からは、児童の保護者の顔が見えないこと、参加していない児童の状況が把握できないことが課題であるとのこと。
- ・対象者を中学生に拡大することも考えられますが、現在、参加者は小学校を通じて募っている状態であるので、中学校との関係構築と、会場のキャパシティ確保が新たな課題となります。

■ 継続的な人手の確保

- ・調理スタッフが高齢化しており、活動継続には、若い世代の参加が課題です。

◎ 堺市及び堺市社会福祉協議会による市内の子供食堂に対する支援

1. 支援の仕組み

■ 子供食堂のネットワーク化

- ・堺市では、平成 29 年度から、市から市社会福祉協議会に委託する形で、子供食堂のネットワーク化に取り組んでいます。
- ・市から委託を受けた堺市社会福祉協議会が事務局になり、平成 29 年 7 月に「さかい子ども食堂ネットワーク」を設立し、ホームページでの取組紹介、子供食堂を実施する団体間の交流・情報共有、人材・食材のマッチング、食品衛生や子供との関わりの研修等を行っています。
- ・「円卓会議」と名付けた情報共有会議は、子供食堂の実施団体、子供食堂に協力する企業や団体、有識者、行政等が一堂に会し、子供食堂の課題共有や子供食堂を支えるための仕組みづくり等について意見交換する等、子供食堂の「羅針盤」的役割を果たしています。
- ・さかい子ども食堂ネットワークへの加入条件としては、非営利・非宗教であること、食品衛生上の責任者を 1 名以上おくこととしています。
- ・さかい子ども食堂ネットワークに加入している団体は、堺市全体で「早起きをして朝ごはんを食べよう会」を含めて 25 団体（ヒアリング実施時点）にのぼり、今後、さらに取組の輪を広げていきたいと考えています。

さかい子ども食堂ネットワーク

トップページ 子ども食堂の紹介 寄付・応援 ネットワーク

子ども食堂

いただきます〜す!

あったかい笑顔 みんなと いっしょ

身近な地域で だれでもOK

子ども食堂について

現在、全国的に様々な考え方がありますが、堺市では様々な家庭環境で暮らす地域の子どもたちを対象に食事と居場所を提供し、見守り、必要に応じて支援機関につなぐ取り組みを子ども食堂と呼んでいます。

子ども食堂を立ち上げたい方へ!

(1)堺市子ども食堂開設支援補助金
堺市内の子ども食堂の開設にかかる経費の一部を補助します。詳しくは堺市ホームページをご確認ください。

堺市ホームページ 子ども食堂について

(2)堺市子ども食堂ガイドライン
子ども食堂を開設する際の留意点等をまとめてあります。以下のリンク先からダウンロードできます。

堺市子ども食堂ガイドライン (PDFファイル)

(3)ネットワーク入会を希望する方へ
さかい子ども食堂ネットワークでは、子ども食堂を実施する団体の入会を受け付けています。詳しくはこちら

新着情報

2018.02.13
堺市社会福祉協議会
第3回さかい子ども食堂円卓会議を開催します

カレンダー

2018年 3月

1 木

さかい子ども食堂ネットワークホームページ (<http://www.sakai-syakyo.net/KSN/>)

円卓会議の様子



■ 子供食堂開設のための支援

- ・堺市では、平成 28 年度に「子ども食堂モデル事業」を実施し、市内複数個所で子供食堂を開催しました。その中で、利用ニーズや運営課題、他の自治体の実施事例の収集等を行い、子供食堂の開設や運営上の留意点の洗い出し等を行いました。
- ・この「子ども食堂モデル事業」の成果を踏まえて、立上げ時に考えておきたいことをまとめた「準備チェックリスト」、安全・衛生管理上の注意事項をまとめた「食提供チェックリスト」等を含め子供食堂の作り方をまとめた「堺市子ども食堂ガイドライン」が作られました。
- ・堺市では、平成 29 年度から「堺市子ども食堂開設支援補助金」（20 万円/件）を設けています。補助対象は、開設時に購入する備品や設備改修等の費用で、月 1 回以上開催すること、非営利・非宗教の団体であること、食品衛生上の責任者を 1 名以上置くこと等が条件となっています。
- ・堺市社会福祉協議会では、堺市からの委託業務として、子供食堂を立ち上げようとするところの開拓やサポートも行っています。

2. 課題・今後の方針

- ・子供食堂が増えてフードバンクで十分な食材が手に入りにくくなる中で、市社会福祉協議会では、地元スーパーとの連携や、各戸からの食材（余っている歳暮等）の提供を受ける仕組みの構築等について検討しているとのことです。
- ・宮園校区の取組は、市内で 1 つのモデルとして考えられつつあります。市社会福祉協議会としては、宮園校区が活動を継続できている背景等を他の地域に紹介しています。
- ・市社会福祉協議会としては、子供食堂の交流会や円卓会議の実施を通して、課題や工夫の共有がなされるよう、側面支援をしていきたいと考えているとのことです。